

西光寺だより

第一九〇号 令和八年 六月一日発行

六月になりました。あつという間に一年の半分という感じがしますが、皆さんどのようにお過ごしでしょうか。

この時期は、梅雨のイメージが強いと思いますが、日々のこの暑さを感じますと、この夏はどのような暑さになるのか心配の今日この頃であります。皆さんには熱中症など気を付けていただきながら、お互い過ごしたいと思えます。

先月、ある新門徒さんのお墓の建碑式と納骨を行いました。

中国から日本に來られたご家族で、西光寺とのご縁は娘さんのご葬儀でありました。

ご葬儀を終え、満中陰までの間は西光寺の本堂余間に安置され、一週間ごとの中陰のお参りにも多くのご家族ご親戚の方々がお集まりになりました。皆さんでお勤め、お焼香をして偲ばせていただいたあと、持つてこられたお供え物のお下がりを皆さんでいただかれ、亡き娘さんとお時間を過ごされておられました。そのお姿は、とても穏やかなものでありました。

満中陰が終わり、中陰壇を撤去され、お写真とお骨を持つて帰られる時には、私たちも何か寂しく思ったことあります。

そして、その娘さんのお墓の建碑式と納骨法要を行いました。多くのご家族・ご親戚・縁者の方々が來られ、四〇名ほどでお参り、お焼香をいたし、偲ばせていただきました。

中国のお墓には『先祖や家族への深い敬愛』と『子孫繁栄・長寿の祈り』という大きな二つの意味があり、そして亡くなった後も家族の絆を大切にし、先祖を立派に祀ることで生きている子や孫に幸福がもたらされると信じられているそうです。

娘さんのお墓にも、「絆」の文字が書かれてありました。

私たちの生きている世界では、その国ごとに習慣や文化が違います。けれど阿弥陀さまからするならば同じいのちを生きている者に変わりはありません。この度のご縁で違いをつけているのは生きている私たちの方だと改めて気付かせていただくことでありました。

言葉や文化が違えども同じいのちをこうして生き、亡くなられた方に敬愛と慈しみの思いで手を合わす。

そして、生かされている私たちこそ、国籍に関わらず今あるこのいのちを大切にすべきだと感じさせていただきました。

この出会いがなければ知ることがなかった尊い思いにふれながら、改めてしっかりと生きたいと思うことであります。

合掌

日本では春秋のお彼岸、お盆、ご命日、年末年始などに数回お墓参りに行く習慣があります。

中国では年に一度、清明節(せいめいせつ)というお墓参りの日があるそうです。この日はどんなことがあっても子どもから大人まで家族みんなでお墓参りに行き、草むしりなどの掃除をし、先祖供養するそうです。◀マキセキブログ▶

そして、お墓参りの後は、お供え物やご馳走を食べたりして墓前で宴会をするそうです。沖縄でもそのようなことがあるように聞いています。国や地域によってさまざまなお過ごし方があるんですね。



●今月のことば●

忘れても

慈悲に照らされ

南無阿弥陀佛

才市同行（さいちどうぎょう）

お笑いコンビ「千鳥」の大悟さんが以前、テレビ番組で父との思い出を語っていました。岡山県の北木島（きたぎしま）出身の大悟さんは十八歳のとき、「大阪に出て、芸人になる」ということを父に伝えました。寡黙な父は言いました。「わかった。大阪へ行く前日、一日だけ空けてくれ」。

当日、島を出ることを嫌っていた父と一緒に船に乗り、本土に渡りました。着いた港から軽トラックに乗って向かった先は墓地でした。そこには、小学生のとき問題児だった大悟さんを気にかけてくれて、いつも味方でいてくれた担任の先生のお墓があったのです。

お墓の前で父は、「正直なところおまえがこの先人生で成功しようとして失敗しようとするのもいい。だけど、この墓までの道を忘れるような人間にだけは絶対になるな」。大悟さんにそう伝えたそうです。

これは、恩を忘れる人間になつてはいけないという父からのメッセージでした。

大悟さんと同じように、私たちは誰しも恩を受けて生きています。恩を忘れてはいけな**い**と思いつつも、目先の成功や失敗に一喜一憂し、受けた恩をついつい忘れてしま**い**ます。

阿弥陀さまの「恩」に対しても同じことが言えます。

阿弥陀さまが私にかけてくれた願い。その「恩」はかりしれません。幼い頃から阿弥陀さまの願いを何度も聴聞しました。その瞬間は確かに有り難いと思っ**て**いるのですが、次の瞬間には別のことにとらわれ、忘れてしま**う**自分がいます。

たとえ私が忘れても、常にはたらく続ける阿弥陀さま。

「南無阿弥陀仏」のお念仏によって、阿弥陀さまが私の声となつて、私の所に至り届いてくださいます。そして、阿弥陀さまは私に寄り添い、誰よりも強い味方になってくれるのです。

日々を追われ、肝心なことを見失いがちな私たちだからこそ、このお念仏だけは忘れずに心に留めておきたいものです。

≪本願寺新報 江田智昭≫

◆七・八月の行事◆

・八月 十五日（土）

盂蘭盆会法要

午後六時～

西光寺本堂

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七二

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>